



2030 年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋 1 9 6 3

(株)エホ・リレーション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net

<https://3c-mie.net/>



当社の会員のみなさんはさまざまな職種の方がみえます。今回は、その中で幼いころの夢を仕事とされ、アクティブな活動をされている植野めぐみさんに投稿いただきました。

最近、いろいろな地域でまちづくり活動や観光への取り組みがみられますが、意外とそこに長年住んでいる人は地元の魅力に気づいていないことが多いようです。何気ない路地裏や川べりに思わぬ発見があったりします。それを教えてくれるのが植野さんが手掛ける「絵地図」かもしれません。

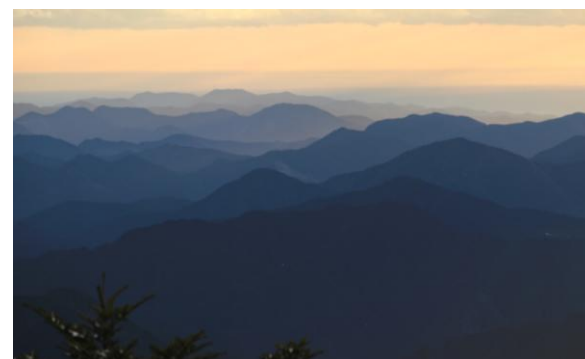


アトリエ・ちきゅうの道
植野めぐみ さん

幼少期から東紀州に興味を持ち、人力での旅の面白さから広がった人生

三重県津市で絵地図作家および歩き旅アドバイザーとして活動している植野めぐみと申します。主な活動内容は手描き絵地図の制作、絵地図をモチーフにしたグッズ制作、ロゴデザイン、熊野古道ガイド、インバウンド向けを含む歩き巡礼旅のコーディネートです。手描き絵地図は限られた町内エリアから世界規模のものまでさまざまなスケールを手掛けており、主に観光関係事業者、行政関係者のご依頼から自主制作までと幅広く受け入れています。

7歳の頃、家族旅行で和歌山県の川湯温泉に行ったときに車窓から見た景色…この時はずっと小雨が降っており、霧に霞む山並みが続いたと思ったらいきなり海が見えてきて、のちに濃い緑色をした川が現れる…どこか不思議で神秘的な風景が幼かった私にはかなり突き刺さりました。この時見た景色こそが、津～三重県南部～和歌山県奥熊野の光景でした。また、自分自身の祖父の出身地が尾鷲ということもあり、前記の思い出も合わさって幼少期から紀伊半島南部には深い思い出がありました。今思えば、この時に感じたことが今の活動の原点だったと気づきました。



山々が重なる紀伊半島の様子



旅をする大学時代の自分

中学生の時に読んだ旅行作家の紀行文と南米の写真集がきっかけで、この時から将来は世界各地を旅するライターになりたいという夢を持ちました。大学入学後はワンダーフォーゲル部に入り、全国各地の山を大きなバックパック背負って縦走、キャンプ道具担いで沖縄県の八重山諸島放浪や自転車での日本縦断などを体験しました。大学3年生の頃、ちょうど熊野古道が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産登録されるタイミングと重なり、兼ねてから思い出のある地であった東紀州を縦断する熊野古道伊勢路を初めて踏破しました。

大学卒業後は尾鷲に移住 熊野古道関連の仕事に関わりながら国内、海外を旅する

大学を卒業後間もなくして、尾鷲に移住しました。きっかけは三重県立熊野古道センターの展示品に関する現地調査のお仕事の依頼。学生時代に一人で熊野古道を歩いていた時にツツラト峠でたまたま出会ったハイカーの方が実は関係者で、その際に交換していた名刺の自身の連絡先にその方から約 1 年越しに「熊野古道の調査の仕事してみないか？」との連絡が入り、この流れになりました。この仕事を機に多種多様な場面で活躍する人たちとのつながりが生まれ、その後の人生にも大きな影響を与えられました。大学ワンゲル時代に人力の旅の楽しさを覚えたこと、20代前半に経験したこれらの仕事や人とのつながり、そして自分が兼ねてから魅せられていた紀伊半島に熊野古道という昔の人が歩いてきた道があり、それを歩きながら仕事やプライベートで探っていくことで「古道」というものが自分の活動のテーマとなっていきました。20代後半以降は「日本や世界に、熊野古道のようにいにしえから多くの人が歩いてきた巡礼道や交易路がどのくらいあるんだろう」という興味のもと、オーストラリア、アジア、ヨーロッパ、四国、沖縄、中山道など、国内、海外の古道を渡り歩いてきました。

絵地図で地域を、世界を表現したい

旅をするにつれ、自分がたどってきた軌跡を表現したい、できることならばそれを生業にしたいと思うようになり、その表現方法としてたどり着いたのが絵地図でした。2012 年から独学で描き始め、2019 年には「アトリエ・ちきゅうの道」の屋号で絵地図作家として独立し、今では専業で描いております。元々絵が好きだったこともあります。有名な観光地や“映えスポット”などと呼ばれる多くの人の目に留まる所だけでなく、それらとつながる名もなきエリアも含めての等身大のその地の魅力を伝えられるものは鳥観図などの絵地図しかないと感じたからです。また、自身が海外で歩き旅をした際も、世界遺産などの世界的に有名な場所はあるとあらゆる地図やガイドブックが存在するけれどもそうでない空白地帯に関する情報は皆無…何度も泣きそうな思いをした経験から、その道筋を歩いて旅する人も安心して楽しく見られるものを手掛けたいという思いもありました。その空白地帯とされる場所にも現地の人にとっての日常があり、そんな何でもない光景をも鳥観図へと描き上げるその瞬間が何よりも楽しいです。



全長3.6メートルにわたる絵地図『地球古道 Roma to Santiago 3000km 編』 2020 年作成

絵地図を通じて今後伝えたいこと

絵地図描きと同時に自分の人生のテーマのひとつでもある歩き旅。歩いて旅ができる地域や国というのは、現時点においては最低限の事さえ気を付けていれば平和であるといえます。ヨーロッパでは 1000 年も前から残る巡礼道や聖堂が各地を網羅しており、ロングディスタンスハイキングとしてこれらを歩く文化が根付いています。日本でも熊野古道や四国八十八カ所始め、中山道、東海道などを長期間かけて歩いて旅する人がいます。自分探し、健康維持、文化探求など目的は様々。時速4～5km で進められるこれらの旅はまるで物語のようであります。旅人が安心して楽しく歩く、または読んでいだけで夢が膨らむような絵地図を今後も作っていきたいと思っています。自身が手掛けたものを片手に歩く人が増え、そんな動きが世界をつないでいってくれればと願いながら、今後も活動が続けていきます。



第二作目となる著書

『カミーノ・デ・サンティアゴ フランス人の道編』



約 890 kmにわたる道を日本語版絵地図として描いた 44 ページの本
今後は来年中に熊野古道とカミーノ北の道編が新たに出る予定

アトリエ・ちきゅうの道の活動や過去の作品などはインスタグラムで発信しております。また、オリジナルグッズはオンラインショップにて販売しています。

Instagram QR →

